

事業評価シート

担当課・室長：環境管理局総務課長

| | |
|---------|---|
| 事業名 | 科学的知見の充実 |
| 上位施策名 | 大気環境の保全 (イ 浮遊粒子状物質対策) |
| 1 事業の概要 | <p>大気環境改善効果の定量的把握に資することを目的とし、浮遊粒子状物質（SPM）の発生機構を解明し、大気環境の汚染構造や改善効果を適切に予測・評価できる精度の高い濃度予測モデルを構築する。</p> <p>PM2.5の健康影響の評価のために、曝露実態調査や疫学調査及び動物実験を行う。また、成分に着目した微小粒子状物質の測定及び評価方法を確立する。</p> <p>実測データと数理モデルを用いたディーゼル排気粒子（DEP）の人への曝露量に関するデータを集積するとともに、動物実験による毒性データを集積し、精度の高いリスク評価に資する。</p> |
| 2 進捗状況 | <p>平成11年6月に取りまとめられた「浮遊粒子状物質総合対策検討会」の報告を踏まえ、原因物質の排出実態、汚染構造の解析及び予測モデルの検討を行っている。このうち、移動発生源については、平成11～12年度は沿道のSPMの実態把握調査、モデル構築を行った。</p> <p>平成13年度は一般環境及び沿道のシミュレーションモデルの構築、同モデルによる自動車排出ガス削減効果の算定を行う。</p> <p>平成12年度は各分野における調査設計に基づき調査を行った。平成13年度も引き続き調査を続けていく。</p> <p>DEPのリスク評価に関しては、文献調査に基づき、平成12年9月に中間的なとりまとめを行った。平成13年度中に曝露量に関するデータを基に次期の取りまとめを行う予定。</p> |
| 3 評価 | <p>浮遊粒子状物質の発生源情報の整備や粒子の変質、挙動のメカニズム等に係る情報を計画的に拡充しており、これらをもとにしたモデルの構築は、各種発生源対策に係る施策の効果把握、自動車の新長期規制値の検討等に活用でき、今後とも必要な事業である。</p> <p>また、健康影響に関する知見の充実についても、微小粒子状物質の疫学等データの集積や、DEPリスク評価の中間とりまとめを行うなど、着実に進みつつある。これらは、今後の各種行政施策の基礎となるものであり、その重要性は極めて高い。</p> |
| 4 予算事項名 | <ul style="list-style-type: none"> ・浮遊粒子状物質総合対策検討 ・沿道における浮遊粒子状物質生成メカニズムの解明に関する研究 |

| | |
|----------|--|
| | <p>費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微小粒子状物質中成分の測定・評価手法確立調査 ・微小粒子状物質等の曝露影響調査研究費 ・ディーゼル排気微粒子リスク評価検討調査研究費 |
| 5 対応副施策等 | |